

真心込めて  
サポートします!



奥州市民活動支援  
コーディネーターの  
鈴木まゆ子さんが、  
市内の市民公益活動  
団体を紹介します。

市民活動支援コーディネーター

市民公益活動(市民による自主的・自発的な社会貢献活動)を行う団体を支援することを目的に本年度から新たに設置しました。団体の皆さんの話を聞きながら、情報発信や相談などを行っています。

■問い合わせ

地域づくり推進課 市民活動係  
(江刺総合支所・☎34-1618)

# 思いをカタチに 地域づくりの輪



## 特定非営利活動法人 太平洋戦史館

**特**定非営利活動法人太平洋戦史館は「戦争の記憶を風化させないために、戦争で起こったことをありのまま伝えていきたい」「海外で戦死した日本兵の遺骸を日本へ帰国させたい」という思いを実現させるために、平成13年に設立しました。

代表の岩淵宣輝<sup>のぶてる</sup>さんの父親も、ニューギニア島で戦死されています。岩淵さんが父親の戦死地を初めて訪れたとき、現地の神父から「いまあなたに立っている所、この芝生の下には何百という日本の兵隊さんの遺骸が埋まったままです。ここには、日本政府の遺骨収集は一度も来ていません」という話を聞き衝撃を受けたのが活動の原点と岩淵さ

んは語ります。

戦争の災禍を語り継ぐ

平成7年、衣川に資料館である太平洋戦史館を開館。戦死者の遺骸の写真や発見された鉄かぶと、遺留品、軍票、瓶のかげらなどを常設展示しています。見学者が来館した際には、展示物の解説をしながら、数多くの遺骸が日本に帰国できていない事実や、戦地跡には今も手りゅう弾が残っていることなどを伝えていきます。展示している遺留品には、名前の刻まれた水筒や飯ごう、万年筆などがあり、個人を特定できるものは1日も早く遺族に引き渡せるよう、名前を一覧で紹介しています。また、全国各地で写真展を開催し、遺留品を遺族の元へ返す活動をしています。

岩手大学で、海外の戦地跡に日本の兵士たちの遺骸が多く残されている事実を踏まえ、た講義を行っているほか、地元の小学生在が歴史の授業で来館した際には、教科書だけでは分からない戦争の実態について説明しています。一昨年は、徳島県や韓国で講演会を

終戦75年目を迎えて

特定非営利活動法人太平洋戦史館は遺骨帰還政府派遣団を引率して戦没地を巡り、これまで日本兵1568人分の遺骸を帰国させました。今後も日本政府と連携しながら、戦死者の遺骸を帰国させるための捜索活動を通して、戦争を知らない世代へ語り継ぎ、戦争の悲惨な実態や平和について考えてもらう機会を提供していきます。

資料館の見学は予約を

説明担当者が海外出張で不在にすることが多いため、見学を希望する人は事前にメールで希望日時をご連絡ください。

■場所 太平洋戦史館(衣川陣場下41)

■連絡先 特定非営利活動法人太平洋戦史館 会長 理事 岩淵宣輝(☒mpj.ara@cameo.plala.or.jp)



公式サイトで  
団体の活動を  
詳しく紹介  
しています  
(http://www.  
ww2museum.jp)



(上) 資料館の展示室、(下) 名前が入った水筒

1月8日

おじま  
小島マリヤさん 100歳  
(前沢あすか通二丁目)

百寿



一関市花泉町で生まれ、18歳のころに故・孝さんと結婚。2男1女をもうけ、孫4人、ひ孫7人に恵まれています。花が好きで若いころは華道教室を開いていました。また、謡曲もたしなみ、90歳を過ぎては畑仕事に精を出しました。「何でも食べて、一生懸命取り組むことが長寿の秘訣では」と家族は語ります。

1月10日

富士ミワさん 100歳  
(衣川上寺田)

百寿



衣川雲南田で生まれ、19歳のころ結婚。子3人をもうけ、孫6人、ひ孫9人、やしゃご3人に恵まれています。裁縫や編み物が得意で、自宅には自作の人形やこたつ掛けが並びます。長生きの秘訣は、身の回りのことは自分ですること。贈呈式ではミワさんのことを話す娘さんたちを「外交官」と例え笑いを誘いました。

1月13日

防災使命を胸に決意新た

イベント



市消防出初式が市文化会館(2ホール)で行われました。消防団員ら約1,000人が、消防車両39台を従え分列行進。式典の部はカラーガード隊の華やかなドリル演技で幕を開け、水沢纏組と江刺纏隊が纏振りを披露しました。長年勤続した団員らへの表彰も行われ、参加者は地域の安全を守る決意を新たにしました。

1月19日、26日

水のアーチで守れ文化財

命政



市と市教育委員会は奥州金ヶ崎消防本部と協力し、市内2カ所で文化財防火訓練を行いました。19日に行われた前沢・竈神社<sup>かまど</sup>の防火訓練では、草焼き中に神社の防風林に延焼したとの想定で実施。住民による初期消火の後、消防署員と消防団員が林や神社に向かって一斉に放水し、有事の際の手順を確認しました。

1月19日

伝統の芸能を舞台上で表現

イベント



前沢郷土芸能祭が前沢ふれあいセンターで開かれ、太鼓や神楽、恵比寿舞など6団体が地域に伝わる芸能を披露しました。白山子ども百姓踊りでは、小学校3年生から5年生までの児童15人が手作業だった時代の米作りの様子を元気いっぱい再現。訪れた観客たちは、そのかわいらしいぐさに目を細めていました。

1月27日

子どもたちに伝えたい  
宇宙の魅力

イベント



国立天文台水沢VLB観測所の本間希樹<sup>まれき</sup>所長が、著書「国立天文台教授が教える ブラックホールってすごいやつ」を市内全小中学校に寄贈しました。イラストを担当した吉田戦車さんの母校である水沢南小で贈呈式が行われ、本間所長から本を受け取った及川悠希児童会長は「みんなで読みたい」と感謝しました。